

## 裏から見た明治維新論

### 1、なぜ、幕府を倒す中心勢力が薩摩や長州だったのか？

①「関ヶ原」の「負け組」としての共通性⇒屈辱、復讐心の再生産

【司馬遼太郎「街道をゆく・長州路」より】

「天誅だあ」という子供のあそびが、昭和の初年ごろまで、山口県のどの町でも村でも行われていた。チャンバラごっこをするときのセリフで、棒をふりあげて相手を斬る勢いを示すとき、奇声一番、裂帛の気合いをもってこのセリフを吐き出すのである。…中略…これが、薩摩（鹿児島）へゆくと、「チェスト！関ヶ原」という掛け声になる。昭和10年ごろまで鹿児島県ではこうであった。小学校のツナヒキ競技でも、ギリギリの正念場でこの掛け声をかける。チャンバラごっこの時もそうである。関ヶ原の役（1600）で島津兵は千人ほど出陣し、生還したのは70人前後であった。「関ヶ原のうらみをわすれるな」ということが、子供のあそびの気合ことばにまで普遍して徳川300年を過ごしたのである。

○薩摩藩⇒島津義弘は西軍として関ヶ原の戦いに参戦し、奇跡的に生還した。この義弘公を偲び、城下の武士たちが菩提寺の妙円寺に鎧兜で参拝するようになった。これが妙円寺参りの始まりで、関ヶ原の役のあった9月15日に今も行われている。

○長州藩⇒元日総登城の日、萩城の獅子の廊下を渡る殿さまに、控えていた重臣が「恐れながら申し上げたき儀が」と申し出、殿の許しを得て、「（殿の耳元で）今年徳川征伐の軍を何時起こしましょうか」とささやく。殿は「まだ、はやかろうぞ」と答える。関ヶ原の屈辱を思い起こした「獅子の廊下の儀」が毎年行われた。

②「討幕運動は関ヶ原の復讐戦」と割り切れるほど事は単純ではない

坂本龍馬の仲介で「薩長同盟」が成立するまで両藩はむしろ宿敵の間柄だった。その薩長を結びつけたのは外圧に対する危機意識（攘夷思想）。ただ、幕府が開国したから反幕府側は開国反対の攘夷だったのであって、実際に攘夷決行（薩英戦争・下関海峡砲撃）の結果、とてもかなわないことを知るや否や開国論に転換した。本質は権力闘争であり、政策は簡単に変えられた。両藩ともに対英接近により軍事力強化を図った。

### 2、なぜ、新政権の中枢に島津や毛利の名がないのか？

①封建社会を内部からつき崩す深刻な財政難

藩財政が厳しくなると逆く、商人の財力が強くなっていく。

⇒資料「武士と商人、その経済力の逆転（淀屋辰五郎の場合）」参照

②危機を打開するための妙案は地位や石高の高い人間から得られるか。断じて否

○薩摩藩⇒調所広郷（家禄10石）を家老に登用、広郷は薩摩藩の借金50万両を「踏み倒し」、密貿易や砂糖の専売などで財政を立て直した。

○長州藩⇒村田清風（91石）による天保の藩政改革

○島津家はお家騒動（お由良騒動など）で混乱、毛利敬親（そうせい侯）は暗愚、というより家臣に任せる藩主だった。

③「維新」の変革は単なる幕府打倒にとどまらなかった。幕府だけでなく、藩もな

くなることになる。

幕府に代わって明治政府の担い手になるのは下級武士たち、彼らは各藩で実績をあげていった。では、多数を占める農民たちの果たした役割は？

### 3、幕藩体制を突き崩した根源的な力は何か

家康は「百姓は生きぬよう、死なぬよう」と言ったといわれる。つまり、余剰部分は取るが、生活に必要な最低限は残すということ。それが8代将軍吉宗の時代になると、「百姓と胡麻の油は絞れば絞るほど出る」となる。これでは農民の生活、農業そのものが成り立たなくなる。それだけ財政が苦しくなっていた。

江戸時代前半の百姓一揆は代表越訴型、後半になると、農民がむしろ旗を立てて全員が行動するようになる。幕末の一揆は世直し、社会変革を求めるものになっていく。それこそ幕藩体制を崩していく力になった。社会変革は幕末維新の時代に活躍したと語り伝えられるような個人の力によるものではない。

### 4、《御一新》は、はたして民衆の期待に応えるものであったか？

#### ①「年貢半減」への期待は裏切られて

相楽総三を隊長とする「赤報隊」は新政府の許可を得て、官軍の先鋒として「年貢半減」を宣伝しながら京都から江戸を目指して進軍したが、新政府は年貢半減を相楽らが勝手に触れ回ったことだとし、偽官軍の烙印を押して処刑した。

#### ②明治になって増えた農民一揆

高崎五万石騒動なども明治になってから起こった。

#### ③「四民平等」のからくり

※「解放令」反対一揆⇒農民が穢多・非人をなくすことに反対した。

※「徴兵懲役一字の違い」⇒国民はみな苗字を持つことになったが、苗字を必要としたのは徴兵制を必要とする政府であった。

#### ④近代的土地所有制というけれど（地租改正の問題点）

※長く入会地として利用されてきた土地や森林が、持ち主不明であることを理由に国有・公有になり、住民の自由な利用が禁止された。結果的に、新政府に対抗するために結成された奥羽越列藩同盟への報復ということになった。

※地価の3%という税率は江戸時代と変わらず、さらに徴兵の負担が加わった。そのため地租改正反対一揆が起り、明治政府は1977年に地租を3%から2.5%に引き下げる決定をした。

### 5、世の中が変わる大事な時に、民衆は何をしていたのか？

#### ○「ええじゃないか」騒ぎ

1867年8月から12月にかけて、江戸から東海、京都、大阪にかけて起こった。

「岩倉公実記」によれば、空中より神符が降り、これを慶事の前触れだとして、民衆は仮装して集団で踊った。そして、「12月9日王政復古発令の日に至て止む」とある。このことから、「仕掛け人」がいたのではないかと、薩長討幕派の作戦ではないかとの説が有力。

民衆は大事な時にだまされる。つくられた熱狂に踊らされることがある。特に戦争の時などにだまされる。メディアの発達している「現代」においてはなおさら。

（まとめ 設楽春樹）